

第3回青森県こども未来県民会議

## 実施報告書

## 1. 事業目的

青森県内における少子化の要因分析や政策立案、政策効果の検証等を行い、合計特殊出生率2以上に道筋をつける少子化対策「青森モデル」を構築するため、青森県子ども未来県民会議を開催する。

## 2. 事業内容と実績

### (1) 第3回青森県子ども未来県民会議の運営

① 実施場所：青森市 AOMORI STARTUP CENTER

② 実施日：3月16日(土) 13:00～14:00

③ 参加者：知事・メンバー7名

(亀山瑠香さん・越田安耶子さん・田中綾乃さん 3名欠席)

	氏名	ふりがな	居住地
1	小山 悠里	おやま ゆり	青森市
2	亀山 瑠香	かめやま るか	おいらせ町
3	工藤 史子(※)	くどう ふみこ	青森市
4	越田 安耶子(※)	こした あやこ	青森市
5	坂本 美香子	さかもと みかこ	弘前市
6	田中 綾乃	たなか あやの	南部町
7	種田 英里香	たねだ えりか	弘前市
8	牧野 晴子	まきの せいこ	青森市
9	山内 優(※)	やまうち ゆう	青森市
10	和田 和恵	わだ かずえ	東北町

五十音順。※印は団体等からの推薦。

## ④ 開催内容：

報告「ワークショップ実施報告」(株式会社 I・M・S)

県説明「令和6年度青森県こども関連当初予算案について」

意見交換

	名前	意見内容
1	小山 悠里さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てをする人が肩身の狭い思いをすることのないよう社会全体で子育てをする気運を醸成してほしい。</li> <li>・デジタル化や既製品の活用などにより保育士の負担を軽減し、保育の質を向上させてほしい。</li> <li>・女性の定着、還流のためには、結婚・妊娠を経ても、以前のポストのままで仕事を継続できるような環境を整えてほしい。</li> <li>・子育てショートステイを実施する市町村が少ないので、夜間に仕事をする方がこどもを預けられるサービスを充実させてほしい。</li> </ul>
2	工藤 史子さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民みんなが、自分ごととして少子化の問題を考えていく必要がある。そのためには、県が広く広報することが重要だと思う。</li> <li>・県の予算が公表されてたが、マンパワーの不足を補っていく必要がある。そのために、ICT化が重要である。</li> <li>・介護士や保育士等の事務的な業務をICT化するうえで、サポートしてくれる専門的な人員の配置があるとよい。</li> </ul>
3	坂本 美香子さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとゆっくり子どもと向き合いたいと思いながら、仕事と生活で精一杯という家庭が多い。手厚いサポートで余裕が生まれれば、もう1人産みたいという気持ちになるのではないか。</li> <li>・青森県に残りたい、ここにいたいと思えるように、県の魅力を広報する必要がある。</li> <li>・既存の両立支援は未就学児が中心であり、小学生を育てる親への支援がほしい。</li> <li>・保育園や学童保育の職員の配置基準、賃金、部屋の広さなどを改善してほしい。</li> <li>・学童保育の人員補充は、短期の補充(学生やシニア)では根本の解決にはならないと感じる。</li> </ul>
4	種田 英里香さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食費無償化から着手することにした理由を知りたい。</li> <li>・シッターを利用したくても、県内にはシッター自体が不足している。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"><li>・不妊治療への支援については、病院での治療以外も助成する仕組みを考えてほしい。</li></ul>
5	牧野 晴子さん	<ul style="list-style-type: none"><li>・子育て中の方の意見を広く受け取る機会があったほうがいい。</li><li>・子育てにどのくらい費用がかかるかがあらかじめわかれば、準備ができると思う。</li><li>・ジャージ購入費や学校への交通費等など子育てに様々な費用が掛かるので、細かいところに補助がほしい。</li><li>・人員が不足しているため、複数の保育施設が連携し、人員のやりくりができるといいと思う。</li><li>・子育て情報や障害児の相談など、どこに相談したらよいかわからない。</li></ul>
6	山内 優さん	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和6年度予算では、各学校にスクールサポートスタッフが配置されるとのことだが、教員が休んだ時の対応はスクールサポートスタッフに任せることができないため、子育てを終了した方や若い世代に負担がかかるのではないか。</li><li>・子育て世代が休みやすくするため、学童保育では学生等で人員を確保する仕組みがあったよいのではないか。</li></ul>
7	和田 和恵さん	<ul style="list-style-type: none"><li>・少子化対策は、10代20代の若い方の意見も広く集める必要がある。</li><li>・子どもを産みたいと思うためには、ゆとりある時間を夫婦が持てるような働き方改革が必要である。</li><li>・不妊治療をするために仕事を休みにくい。仕事が調整できる働き方ができるとよい。</li></ul>